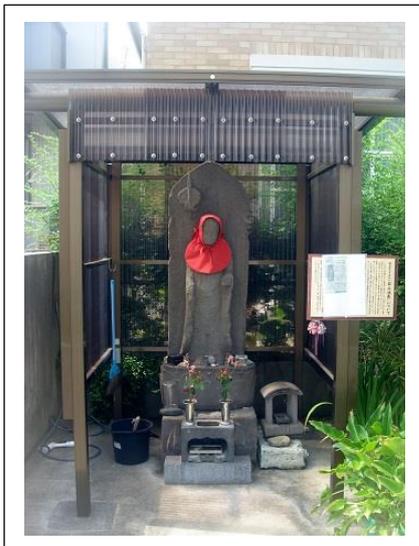


江ノ島道渡舟場、大源太

八柳 修之

藤沢駅北口から湘南ゲートウェイ（旧名小田急百貨店）と宝飾屋さんの間のファミリー通り（江ノ島道）を進む。商店街を抜けると左に小公園砥上公園があり、近年、移設された杉山検校の建てた江ノ島弁財天道標がある。続いて右側に石上神社、角の保育園の辺りから下り坂になる。このあたり、低地となっているのはかつて境川が曲流になっていて川袋と呼ばれ低地であったからである。

直進し突き当たると大源太公園であるが、右側に入る道があるから入ってみた。石上 3 丁目 4-8 M 氏宅前にサンルーフの屋根付きのお地蔵さんがあった。説明板があり、地蔵菩薩像は 1654（承応 4）年の造立、鶴沼最古の石仏とある。「この辺りは片瀬川（古くは固瀬川）の「川袋」と呼ばれる曲流が始まるあたりに古くから渡舟場が設けられていた。渡舟場は「砥上渡し」と呼ばれていたが、天正年間から「石上渡し」と呼ばれるようになったと「皇国地誌」にあるという。1800 年頃作られた「江嶋道見取絵図」に石上渡しのそば大山道の路傍「地蔵」が描かれているが、この石上地蔵と思われる」と記されていた。しかし、現在の地蔵の位置は、江ノ島道から少し脇に入った所にあるようだ。



鶴沼最古の石仏 地蔵菩薩 石上地蔵



大源太公園内 藤沢市片瀬 3 6 0 - 1 2  
江ノ島弁財天道標

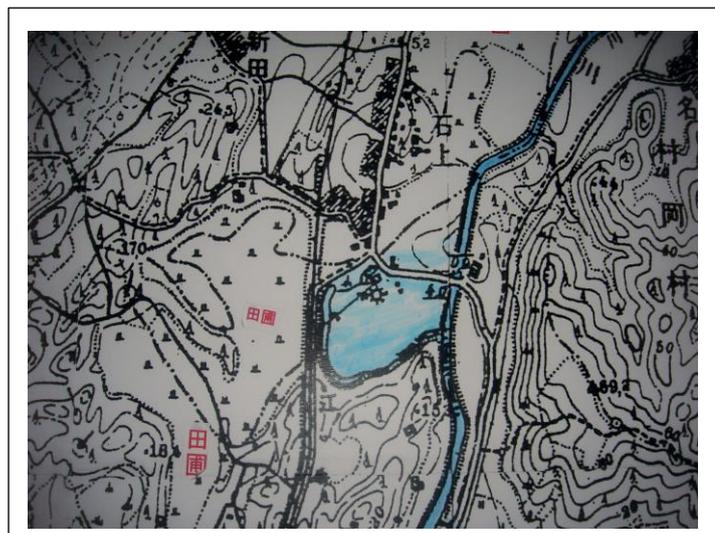


無料画像

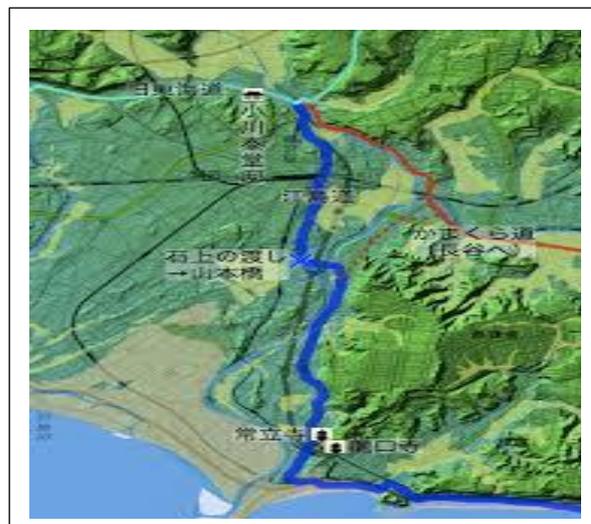
再び江ノ島道に戻って進むと道は左に曲がるが、角に大源太小公園がある。住所表示は鶴沼石上ではなく片瀬 360-12 である。片瀬地区は境川左岸地区と思っていたが、ここは片瀬である。

国道 467 号線を渡った角にある東京ガス、セブンイレブンの住所表示は片瀬であり、南消防署、南保健所は鵜沼東である。

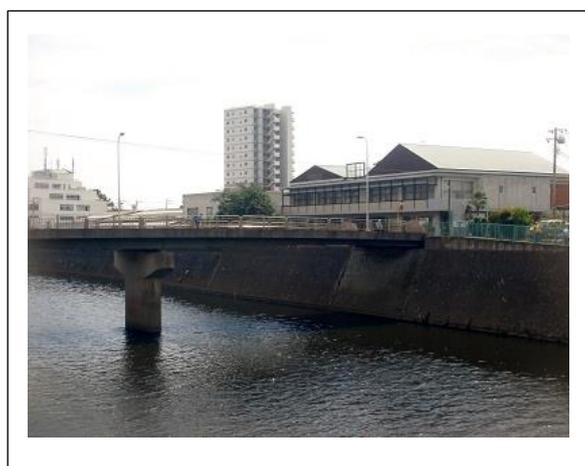
大源太公園は江ノ島弁財天道標が建っていなければ何の変哲もない小公園である。この道標は片瀬市民センター・公民館の駐車場にあったものを移設したという説明があり、しかるべき所に移設された。江戸時代、境川の川岸この辺りを大きく迂回していた頃は、ここが川岸で渡し舟で対岸の大源太に渡った。また江ノ島までの舟が出ていたという。舟橋は 1873（明治 6）年に川口村（片瀬のこと）の名主で鎌倉郡の郡長を務め鵜沼の開発に尽くした山本庄太郎が山本橋（現在の上山本橋）を架橋した。



大正 10 年測量図 水色の部分 川袋



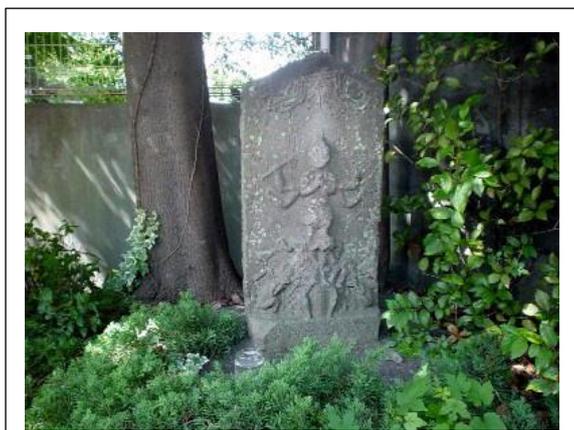
右図 無料画像



上山本橋 前方橋の袂が休日診療所



境川右岸上山本橋 前方ミネベア



上山本橋を渡り、少し先に右に曲がったミネベアの植え込みの中に庚申塔があり、判読しがたいが、左ふじさわと言う文字が読み取れる。調べて見るとこのあたり昔、大源太の辻と言った。さらに驚くべきことは（私が知らなかったことだけだが）ミネベアの敷地内に大源太の遺跡と命名された縄文時代前期から晩期の遺物をはじめ、弥生時代の遺構や遺物が確認されるとともに、古墳時代から奈良・平安時代にかけて集落があったことが、1982 以来7度にわたる調査によって分かったということである。その規模は東西約 500m、南北 600m、砂丘上の遺跡でスクモ塚と呼んでいるという。ミネベア工場内に広い敷地、駐車場があるからおそらくこの下に遺構が眠っているのかもしれない。 完

出典：藤沢の地名 日本地名研究所編  
湘南の誕生 藤沢市教育委員会  
写真は報告書によっています。

発行 藤沢市  
鵜沼を語る会HP 大源太発掘調査報告書HP